

平成 26 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	保険医療課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1. 高齢者の安心な暮らし支援				
分野別方針	(6) 地域医療の充実		実施計画事業	1) 地域医療連携推進事業 (No.7)				
予算等事業名	かかりつけ医普及促進制度							
目的	神奈川県保健医療計画で定められた湘南西部地区二次保健医療圏域における保健、医療、福祉に関する施策を推進する協議に参画し、二次保健医療圏域ごとに、地域の特性に応じた課題と施策の推進に取り組んでいる。							
内容	ホームページに町内医療機関の地図を掲載							
根拠法令・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由								

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由								

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 計画未実施のため継続の必要性がない(休止・廃止)				
	【説明】				

総合評価

実績	ホームページ、広報誌にて啓発。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	広域連携した取り組み件数				
前期(27年度)目標値					【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
	単位:				
実績値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	普及活動を行っても効果が見えないため数値で表す事はできない。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 ホームページ、広報誌、ポスター、健康講座等で啓発	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 国、県、医師会、医療機関等関連機関での広域的取組となるため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 表面的に効果が見られない	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 引き続き関連機関と連携しながら引き続き広報していく	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 効果を見ることができない。はっきりと目的を伝え広報啓発をしていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き広報誌等で啓発、促進普及に努める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	社会全体の仕組みづくりが必要		
今後の方向性	現在の状況から将来に向けての状況啓発が必要。かかりつけ医の存在が必要なことをもっと周知していく必要がある。		